

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷二十第

行發日一月三年十正大

論叢

地方所得税と他地方交渉問題……………法學博士 神戸 正雄
 唯物史觀公式中の一句に就て……………法學博士 河上 肇
 獨逸流通税の變革……………法學博士 小川郷太郎

時論

取引所改善の要點……………法學博士 戸田 海市
 注意すべき小作人問題……………法學博士 河田 嗣郎

說苑

生計費研究法を論ず……………法學博士 森本 厚吉
 所得分配統計……………法學士 汐見 三郎

雜錄

プリーフェニアの統計要覽……………法學博士 財部 靜治
 ビュツヒャー文庫……………法學博士 小川郷太郎
 自由貨幣運動……………法學博士 河田 嗣郎

ビュッヒャー文庫

小川郷太郎

獨逸の經濟學者、カール・ビュッヒャー(Karl Bücher)が其書庫を擧げて賣らうといふ報知が

第十二卷 (第三號 一四九) 四九三

來たのは、約一年前のことであつた。我大學では之を買ひたいと思つたけれども其價が四千磅即ち約四萬圓であるといふので辟易して居つた處、三菱合資會社社長男爵岩崎小彌太氏は之を買はれて我大學に寄附せられることになつた、其圖書は過般我大學に到着した。我大學では之をビュツヒヤール文庫と稱し、三菱合資會社社長岩崎男爵贈の文庫として圖書館内に特別に一纏として保存し文庫の舊所有者と文庫の寄贈者との名を長へに傳へることになつた。仍て少しく其茲に至つた徑路を述べ併せて余の感想を記して置かうと思ふ。

カール・ビュツヒヤールが如何なる人であつて經濟學界に如何に重きを爲してゐるかといふことは、神戸博士が既に本誌第十卷第五號に記せられてゐるから改めて記する迄もない、が只茲に一つ述べたいことがある。そはビュツヒヤールの多くの著書や論文の中で不朽の書ともいふべき國民經濟成立論 (Die Entstehung der Volkswirtschaft) といふ書物である、其書は經濟發展

の階段を説いて、それが閉鎖的国内經濟より都市經濟に移り、都市經濟より國民經濟に移るものであるといふことを明にしたものである。此説は學者に依て多少批難するものがないではないが、多くの學者は知らず識らず之を採用してゐる、少くとも經濟原論の書に於て經濟の發展を説いてビュツヒヤールを引用せないものは殆ど稀であるやうになつて居る。是れ余が此書を以て不朽の文字であるといふ所以である。

世に公にせられる書物は日に益々多いが不朽の文字に至ては極めて少いのである、而して不朽の文字は忽焉として出て來るものではない、著者の苦心は素より一通りのことではない、著者は先づ材料を蒐集せねばならぬ、其蒐集したる材料を整へねばならぬ、而して其上に自己の説を打立てねばならぬ。

吾々がビュツヒヤール文庫が賣物として出たことを聞いたときには、其不朽の文字である國民經濟成立論を思つた、國民經濟成立論に思を廻らすときは、ビュツヒヤールが如何に材料を蒐集

し如何に之を整理し如何に自己の説を立てたかに想到し、其不朽の書を作り上げるに至つた無数の資料を得たいといふ念が起らざるを得ないのである、更に其資料許りでなく獨逸一流の經濟學者が如何なる圖書の中に没頭してゐるものであるか、其モデルを手にしたといふ念も起つて來たのである。

吾々は此くしてビュッヒャー文庫に非常なる執着心を有する様になつたのであるが、偶々岩崎男が之を三菱合資會社の爲めに買ひ取らんとするの意ありと聞いた。處で吾々はビュッヒャーの文庫に依て最も益を受くるものは經濟學を研究する學徒でなければならぬと信じたので、男に此意を通じた所が、男はビュッヒャー文庫を購ひ三菱合資會社社長の名を以て擧げて之を我京都帝國大學に寄附せらるゝに至つたのである。而して其寄附に對しては

一、ビュッヒャーの圖書は一纏として保存し大學の他の圖書と混せないこと

二、將來三菱合資會社の人がビュッヒャーの圖

書を閲覽せんとするものあるときは之に便宜を與ふること

といふ條件を附せられたに過ぎなかつた、第一の條件は吾々もビュッヒャーを思ふ爲めに左様にして置きたいと思つてゐた所であり、第二の條件は男の初の考が三菱合資會社の爲めに買はんとするのにあつた所から見て當然のことである、我大學としては自ら進で此條件を提出せねばならぬ位に思ふた所である。此くして我大學は喜で岩崎男の寄贈を受くることゝなつたのである。

神戸博士は前掲の本誌に於て「ビュッヒャーに就てはまだ死んだといふことを聞かないが、併し其藏書全部の賣物が出た處を見ると死んだのかも知れない、近頃は獨逸よりの雜誌等が來たり來なかつたりで連續的の情報を得ることが出來ぬから、しかとしたことは分り兼ねる」と書かれたが、其當時に於ても何人も同様に疑つたのであつた。併しビュッヒャーは死んでゐないのである、現に最近ビュッヒャーより電報も我

大學に着してゐる、それに依るとビュッヒャーの文庫はビュッヒャーの自宅で荷造りせられ、直に我大學に向て送られたものである、此圖書の賣買に關しては萊府の書舗フォックが中に入つて居つたけれども、其書庫は何人の手にも觸れないで其圖書を集めた人の手から我大學の庭に移されたのである、そこで吾々が此文庫に對するときには、ビュッヒャーは此間迄も是等の圖書の中に没頭して居つたのであるといふ想像が起る、文庫の舊主人は獨逸に残つてゐるが其舊主人の魂は文庫について來てゐるやうに思はれるのである、少くも獨逸學者の研究的精神が文庫と共について來た様の氣持がするのである、思ふに京都大學に學ぶものは永遠に此文庫を利用すると共に此獨逸學者の研究的精神より刺戟を受くることであらうと思ふ。

一體、圖書は學者にとりて寶庫である、學者が死んで其寶庫が賣られるのは珍しいことではないが、其生存中に之を手離しするは、例の少いこと、謂つて可い。ビュッヒャーが今自らの

寶庫を手離しするに至つたことを思ふと、其心に於て非常に苦しいことがあるに相違なからう、是も皆戰爭の生んだ悲劇に外あるまい、聞く所に依れば獨逸の學者は非常に生活に窮してゐるといふことである、學問には國境もない、敵味方もない、吾々は獨逸學者の爲めに同情せざるを得ない譯である、若しビュッヒャー文庫を我大學に得たるが爲にビュッヒャーをして更に安んじて研究をなすことを得せしめ、又安んじて生を送ることを得せしめたとすれば、我國や我大學は岩崎男を通じて世界の學者に對する同情の義務を盡したことになると思ふ。

ビュッヒャー文庫は大冊のものが一萬部、小冊子が四千部あるので、之が整理は一朝一夕に行かぬ、文庫には目録が付て居ないから大學では三年計畫で之を整理分類して完全なる目録をも作らうと思ふてゐる。従て其時にならねば文庫中にある書籍が何々であるといふことを一目で覽ることが出來ぬが、只茲に經濟學に關する専門の雜誌が悉く整つてゐることを概括的に

いふて置きたい。此の如き雑誌は今日に於ては非常なる高價のものである、或は如何に高價を拂ふも手に入れることの出来ぬものもある譯である、ビュッヒャー文庫の價四萬圓といへば、驚くべく高い様に聞こゆるけれども、文庫中の圖書を分析して考ふればさうでないと思ふ。

此の如き學者の文庫が賣物に出たとき最もよく買ふものは米國である、罷り間違へばビュッヒャー文庫も米國に流れて往つたかも知れなかつた。幸に岩崎男がありて之を我國のもの我大學のものとなすことを得たのである。獨逸の文化を我國に移植するといふ上から見ても重大なる意義あることと思ふ。

吾々はビュッヒャー文庫の到來を喜ぶと共に岩崎男が之を寄贈せられた由來を記し茲に同男と三菱合資會社に對して滿腔の謝意を表したいと思ふ、尙三菱合資會社總務部專務理事青木菊雄氏并に京大學生監鈴木信太郎氏が此間に斡旋せられたことをも深く謝せんとするのである。